

# 靖国参拝はヒットラー礼賛と同じ！

安倍首相は2月17日の衆参代表質問での靖国神社参拝に関する質問に「国のために戦い、尊い命を犠牲にした方々に尊崇の念を表し、ご冥福をお祈りすることは国のリーダーとして当然で、世界共通のリーダーの姿だ。」と答弁した。

そもそも靖国神社という私的な宗教施設に総理大臣としての政治家が参拝することは、政教分離の原則からして明確な憲法違反といえる。政教分離とは、戦前の日本が神社に国家神道としての「国教」的地位を与え、天皇を現人神として国民に参拝することを強制した。他方、キリスト教や創価学会・大本教など宗教団体は激しく弾圧された。こうした歴史に踏まえて憲法20条に「国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教活動もしてはならない。」と書かれている。

さらに靖国神社は「天皇のために戦って亡くなった人々の霊を」を祀る神社であり、そこに総理大臣が参拝することは、戦前の侵略戦争を肯定することを内外に表明する行為といえる。そのために、国土を侵略され植民地とされた中国や韓国などが反発する。さらに靖国神社の判断でA級戦犯を合祀してからは、天皇さえ参拝をひかえている。

## 安倍の常識は世界の非常識！

そして安倍は「世界共通のリーダーの姿だ」と開きなおっているが、同じ敗戦国であるドイツとは大なる違いが鮮明となる。元ドイツ大統領ワイゼッカーは『過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです。』と1985年に演説した。こうしてドイツ国民はナチス・ヒットラーによるユダヤ人虐殺や侵略戦争の反省を内外に明らかにし、ヨーロッパ諸国からの信頼を勝ち取っている。はたして過去の侵略戦争を肯定し、従軍慰安婦問題や南京大虐殺など日本が犯した行為を歴史から抹消しようとすることは、戦前の日本軍国主義復活をもくろんでいることに他ならない。こうした安倍や取り巻き連中のことを、海外のマスコミでは「歴史修正主義者」と報じている。

## 国民自らが戦争犯罪人を裁くべき！

そしてもっとも肝心なことは、日本国民自らが過去の指導者たちを裁いていないことである。太平洋戦争で戦死した230万人の軍人のうち、138万人（60%）が餓死・病死であり、113万人の遺骨が未だに日本に帰っていない。そして沖縄戦・空襲・原爆などで…80万人の民間人が亡くなっている。食糧の確保もなく戦場に放置された「英霊」たち、日本列島が焦土にされるまで戦争を止めなかった指導者たちへの審判を日本国民はおこなっていない。

私たちは安倍が押しすすめる新たな戦時態勢づくりに、抵抗し続けよう！自分の子や孫が戦場に送られる時代になりつつあることを認識しよう。